

令和 5 年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	特 1 1			学校名		県立内原特別支援学校										校長名		武井 和志			
教頭名	内田 隆之													事務長名		荻部 隆					
教職員数	教 諭	5 5	養 護 教 諭	2	常 勤 講 師	8	非常勤 講 師	1	実 習 助 手	2	寄 宿 舎 指 導 員			事務職員	3	技 術 職員等	1 0	計	8 1		
児童・ 生徒数	部	1 年		2 年		3 年		4 年		5 年		6 年		合計		合計 クラス数					
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女						
	小学部	1 4	3	1 6	7	4	6	5	4	9	3	7	1	5 5	2 4	1 9					
	中学部	1 1	4	6	4	2	2							1 9	1 0	8					
	高等部	1 0	2	5	3	1	2							1 6	7	5					
	計																9 0	4 1	3 2		

2 目指す学校像

◆安全安心な環境のもと、楽しく元気に学べる学校 ◆児童生徒・教職員・保護者が「夢」をもち、共に歩む学校 ◆教職員が自信と誇りをもって、勤務できる学校 ◆保護者・地域・関係機関に開かれた学校
--

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む）

項 目	現 状 分 析	課 題
学校経営	○高等部新設に伴って、小学部から高等部までの系統性をもったキャリア教育の構築が必要である。生徒や保護者が将来のイメージをもち主体的に進路選択をできるように進路に関する情報発信と進路に係る学習を	○急激な児童生徒増加に対する物理的な対応及び校舎増築に伴う危険個所の再確認と対策強化 ○高等部の教育課程の確立と進路指導の充実

	進めてきた。（校内実習 2 回、現場実習 2 回実施） ○てんかん発作等、緊急時の対応する訓練を実施し、職員の緊急時の対応力を高めた。また、給食に関連する緊急対応マニュアルに基づいた緊急時の対応方法（食物アレルギー、誤嚥、異物混入）やエピペン研修を設定し、外部専門家の助言に基づいた研修を行って職員間の共通理解と事故の未然防止に対する意識を高めることができた。 ○巡回相談数 423 件、（幼保 206 件、小学校 172 件その他 45 件）、電話相談 239 件（幼保 86 件、小学校 106 件、その他 47 件）を行った。 ○コーディネーターの情報交換会を本校で開催した。参加者 35 名（幼保 12 園、小中 17 校） ○県からのコンプライアンスに係る情報を随時周知するとともに、研修や意識調査を全職員に実施して法令遵守に向けた取り組みができた。	（高等部を軸としたカリキュラムマネジメント） （関係機関との連携） ○ヒヤリハットの事案の共有と原因の分析及び再発防止への取り組み ○職員間の情報共有の場の設定（週 1 の夕会） ○学校見学や個別相談・巡回指導等の地域のニーズに更に応えていくための工夫 ○外部専門家との連携による本校職員の専門性の向上 ○本校教育活動の積極的な情報発信 ○コンプライアンス意識の醸成と風通しの良い職場づくりの継続的な取組
学習指導	○S-M 者会能力検査を年 2 回実施し、個別の指導計画へ反映させる取り組みを実施したが、各教科の観点を意識した指導が不十分であった。 ○研究・研修においては、「対話的な学び（主体的・対話的で深い学び）」の実現に向け、授業改善を推進してきた。「主体的、対話的な学び」については、子ども達が楽しく活発な学習活動を行うことができ、成果が見られている。 ○学習指導においては、各教科の年間指導計画を、小学部から高等部まで学習内容や目標について系統性を重視して作成した。	○学習指導要領に基づいた指導計画の作成と評価 ○自立活動の視点を踏まえた学習指導 ○発達障害の特性の強い児童生徒に対する自己肯定感を高める支援方法の徹底 ○授業における ICT 機器の効果的な活用の推進 ○年間指導計画の活用と指導の工夫、実践と評価の見直し ○教材の整理及び貸出簿等を作成と管理の徹底

4 中期的目標

- 1 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実と「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に努める。
- 2 児童生徒一人一人の社会自立と社会参加に向け、学校全体で系統性のあるキャリア教育を推進する。
- 3 保護者、地域、関係機関との連携・協働を通して、学校の専門性を高めるとともに、地域貢献に努める。
- 4 服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成を図り、不祥事ゼロを継続して信頼される学校づくりに努める。

5 本年度の重点目標

重 点 項 目	重 点 目 標
1 一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実	① 「やってみたい」「できた」「わかった」「もっとやりたい」を実感できる授業の実践 ② 的確なアセスメントの実施と活用 ③ 可能性を引き出すICT機器の有効活用 ④ 専門家と連携に基づく、自立活動の視点を踏まえた授業の展開 ⑤ 新学習指導要領の目標・内容に基づいた指導の充実
2 安全安心な教育環境の整備と、心身ともに健康な児童生徒の育成	① 教育環境の整備及び安心して学べる学校づくり ② いじめ・不登校・虐待等への予防的取組と組織的対応の充実 ③ 児童生徒が主体的に取り組む健康教育と防災教育の推進 ④ 特性に応じた摂食指導、食物アレルギー等の適切な対応 ⑤ ヒヤリハット事例の検証と未然防止の徹底 ⑥ 様々な災害を想定した危機管理体制の強化
3 自立と社会参加に向けた教育活動の充実	① 学部の系統性を踏まえたキャリア教育の工夫・改善 ② 進路の選択肢を広げる体験的な学習の充実と実践 ③ 地域資源を活用した体験活動の充実（校外歩行、仕事調べ、職業見学、職場体験、地域貢献など） ④ 進路相談を充実させた、一人一人に応じた適切な進路指導
4 地域連携とセンター的機能の充実	① 保護者及び地域の関係機関との連携強化 ② センター的機能を発揮した地域支援、相談業務等の充実 ③ 早期支援、就学指導の充実 ④ 地域交流・学校間交流・居住地校交流等の共同学習の推進 ⑤ 教育活動の積極的な情報発信 ⑥ 水戸飯富特別支援学校との連携・協働
5 信頼される学校づくり	① 服務規律の遵守とコンプライアンス意識の醸成 ② 風通しの良い職場の醸成と、適切なワークライフバランスに向けた働き方改革の推進